

令和7年度 社会福祉法人東方会 地域連携推進会議 議事録

会議名 令和7年度 社会福祉法人東方会 地域連携推進会議

日時 令和7年10月15日 13:30~15:30

出席者

- 。 グループホームK I T E N利用者代表
 - 。 グループホームピラ・ラズリ利用者代表：1名
 - 。 グループホームW A G E N利用者代表：1名
 - 。 障害者支援施設瑠璃光苑利用者代表：1名
 - 。 ピラ・ラズリ 利用者家族代表：1名
 - 。 W A G E N・瑠璃光苑 利用者家族代表：1名
 - 。 K I T E N利用者家族代表：1名
 - 。 伊万里市役所 福祉課障がい福祉係 : 1名
 - 。 二里コミュニティセンター : 1名
 - 。 理事長、施設長および職員7名
-

議事内容

1. 開会挨拶 理事長（グループホーム管理者）

挨拶に加え、以下の説明と出席者への協力を求めた。

- 。 本会議は、令和7年度の第1回地域連携推進会議である。
- 。 設置目的は、利用者と地域との関係づくり、地域住民への施設や利用者への理解促進、サービスの透明性・質の確保、および利用者の権利擁護である。
- 。 昨年度の法改正（令和6年度）により、入居系施設（施設入所支援の瑠璃光苑およびグループホーム3施設）は年1回以上、地域連携推進会議を開催することが義務付けられた。
- 。 本会議では、利用者やその家族または成年後見人、地域関係者、市町の障害福祉担当者などを構成員としている。
- 。 会議設置の背景として、全国でグループホームにおける不適正な運営（食事提供不足など）が報道されたことが挙げられ、外部の目を入れて運営の適正さを確保する必要がある。
- 。 利用者の方の表情に異変があれば、ぜひ職員へ声をかけてほしい。

2. 事業所説明および活動報告

会議の冒頭、東方会の4つの居住系事業所（瑠璃光苑、ピラ・ラズリ、KITEN、WAGEN）の概要がサービス管理責任者より説明された。

事業所名	定員 (名)	障害支 援区分	意思決定支援/卒園	スタッフ体制	特記事項
瑠璃光苑 (入所施設)	40名	区分5 ~6	他者説明困難、身元引受の援助を要する。意思決定支援計画書を使用。	職員35名、夜勤3~5名、24時間体制。	今年度で開園30周年。最重度の利用者が多い。
ビラ・ラズリ (GH)	12名	区分2 ~5	困難なく行える方。	職員8名、夜勤不在時間あり。	自立した生活をされている方が多い。
KITEN (GH)	14名	区分3 ~6	サポートが必要だが、自らできる方。	職員10名、24時間体制。	WAGENと経営一体的な運営。
WAGEN (GH)	18名	区分4 ~6	スタッフのサポートや特性に応じた手法で疎通が可能な方。	職員15名、24時間体制。	KITENと経営一体的な運営。

報告内容（ビラ・ラズリ / 瑠璃光苑 / KITEN・WAGEN）

※KITEN・WAGENは一体的にイベントなどを行っている為合わせて報告する。

項目	ビラ・ラズリ (GH)	瑠璃光苑 (入所)	KITEN・WAGEN (GH)
日課	起床後バイタル測定、8:30にラジオ体操。日中は週5~6日、外部サービスへ通所。夕食16:30~18:00（時間内は各自）。	個別支援計画に基づき支援。重度障害の方も就労支援センター「シャキッと」へ通所。	起床6:00（目安）、朝食8:00（世話人が調理）。日中は外部サービスへ通所。夕食17:30（世話人が調理）。消灯22:00。
外出・移動支援	休みの日などにヘルパー利用で買い物、通院等。	外出機会は少なく、施設内でのイベントが多い。	移動支援を使い週1回程度の買い物や練習、通院（休日に対応）。
イベント	花見、道路ゴミ拾い（年2回）、避難訓練（年2回/夜間想定）。有田川カワニバル参加など	地域の方との交流をできる限り実施。非常に多くのイベントを施設内で実施。	毎月1回のお楽しみの日（刺身の日、スイーツ提供など）。大きなイベントを3か月に1回程度（記念日、夏の夕食、焼肉会、クリスマス会など）実施。
苦情/意見要望	今年度の苦情受付はなし。	3件あり。 ① 車いすでの傾き（チェック体制強化）	OKITENは地域住民より1件。利用者2名が住民敷地（ガレージ）の日陰で喋っていたことについて、住民

		② リクライニング不徹底（新人指導徹底） ③業者トラックの通行（業者に周知）。	の娘が怖がった。⇒ 真っすぐ帰宅するよう指導。 ○WAGEN は苦情なし。
事故	転倒による骨折（単独外出中の車いすから）、カップ麺の火傷、夕食後の薬の飲み間違い（他者の薬を渡した。職員の過失）。	4月～9月で87件。軽微なすり傷、ベッド/車いすからの転落、歩行時の転倒（骨折事例あり）、お薬の飲み間違い/むせ（11件）。小さな事故も全て報告し対策を検討。	転倒/転落事故が多数を占める。自分にできると思って失敗する事例が多い。
職員研修	全職員対象法人全体の研修、毎月の世話人会議研修、毎日のLINE/ボイスメッセージでのクレド・マニュアル発信、動画視聴。	毎月のグループ会議/事業所会議（爪切り、血圧測定など基礎研修、認知症や障害特性の研修、感染症対策研修）。新人研修あり。ご家族アンケート結果を基にした職員研修（声かけマニュアル改善など）も実施。	全職員対象法人全体の研修、毎月の世話人会議/事業所会議、毎朝の朝礼でのクレド/声かけマニュアル読み合わせ、動画研修。

3. 意見交換・質疑応答

○事業所名命名の由来（地域の関係者からの質問）

- ・ ビラ・ラズリ： 職員による名前の候補から採用。「ビラ」（山小屋のようなイメージ）、「ラズリ」（瑠璃光苑の瑠璃色、ルビー色）。
- ・ KITEN： 入所施設からの地域移行が中心。皆が「起きる起点」「ベースの基点」、そして「ここに来てん」という3つの意味合いを込めた。
- ・ WAGEN： 「和顔愛語（わけんあいご）」（笑う表情と優しい言葉をかけると皆が幸せになる）に由来。法人が曹洞宗のお寺と関連があるため。また wagen〔ヴァーゲン〕（ドイツ語）には「思い切ってやる」という意味がある

○人材確保とサービス品質の担保について（家族代表者からの質問）

・サービスが拡大し、有資格者・無資格者の採用が進む中で、研修制度をどのように活用し、サービスの質を維持・担保しているか。重点を置いている点や課題は何か。

（回答）

- ・ 佐賀県内の人材不足は深刻。外国人人材の採用は費用が高いため、地元の中途採用者に焦点を当てている。
- ・ 「地域生活支援拠点」として、人材育成に力を入れている。
- ・ 研修は、外部の専門家へのアウトソーシングを積極的に利用している。

- 資格取得の支援を充実させている。初任者研修、実務者研修（介護福祉士へ繋がる）、喀痰吸引（2号研修）、視覚障害者同行援護研修など、多くの資格取得を、業務中に、かつ費用負担なくサポートしている。
- 結果として、正職員の初任者研修資格取得率はほぼ100%、介護福祉士の資格取得者は60%を超えている。
- 外部専門家による指導は、身内からの指導よりも効果的であり、教育研修機能を充実させることがサービス担保に繋がっている。
- 職員と利用者の長期間にわたる関係性（20年、30年）があり、職員が資格を取得することで利用者との信頼関係も深まっている。

（利用者）の就職事例について

- グループホーム利用者Aが、就労支援センター「ピシャット」でのトレーニングを経て、現在、入所施設で週3日、1日4時間の就労（消毒作業、水分提供、食事介助など）を行っていることが報告された。
- A氏のご家族から、当初は仕事に就くことに心配もあったが、仕事開始後に顔つきが変わるなど本人に良い変化が見られ、法人と職員への感謝を述べた。
- A氏は、施設職員として必要な存在となっており、瑠璃光苑の利用者からも非常に人気がある。

4. 閉会挨拶（瑠璃光苑 施設長）

- 第1回会議への参加に改めて感謝が述べられた。
- 東方会は、利用者個々の希望を尊重する一方で、公共性の高い事業を担っているため、国民の負託に応えるために客観性を非常に大切にしていく。
- 職員と利用者が常に向き合っていると、話が「内輪」（ドメスティック）になりがちであるため、会議の目的である「透明性」を持ち、風を通すために、今後も日常のなかで気軽に意見を伝えてほしいと呼びかけた。
- 寄せられた意見は必ず生かしていくと約束した。

5. 事業所見学

- 会議終了後、各事業所の見学を実施、各事業所職員により案内した。